

出土品が語る本丸御殿—陶磁器を中心に—

平成 29 年 1 月 21 日（土）

熊本城調査研究センター 美濃口雅朗

本丸御殿の歴史

慶長 15 年（1610）頃 本丸御殿大広間完成

細川氏時代には居所としての性格は薄い、主に儀礼の場として使用

慶応 3 年（1867） 本丸御殿を藩庁とする

明治 4 年（1871）8 月 廃藩置県により鎮台設置

明治 7 年（1874）6 月 鎮台本営は花畑屋敷から本丸御殿に移転

明治 10 年（1877）2 月 19 日 西南戦争に際し本丸御殿焼失

出土陶磁器の時期

殆どは 19 世紀前半～中頃の型式（藩庁・鎮台本営期）

絶対年代が明らかな資料が多い（明治 10 年 2 月 19 日以前）

Ⅲ層出土資料 本丸御殿（鎮台本営）焼失時の埋没土

あるいは焼失から間も無い時期の整地土

二次焼成資料 原因は本丸御殿（鎮台本営）焼失による

出土資料の意義

本丸御殿（鎮台本営）という特殊な利用空間ではあるが・・・

明治 10 年のタイムカプセルを掘りあてたようなもの

当時の暮らし（生産技術・流通形態等を含めた生活様式）を知る稀有な資料

陶磁器の近代化過程

装飾技法は新来技術・器形は在来継承

新来技術と在来のそれとが混在しつつ近代化が進行

在地産陶磁器の同定

器種ごとに産地が異なる傾向（産地の特性を鑑みた購入）

一括購入資料

同形態品の多量出土

多数の人が常駐する藩庁・鎮台という公的施設のあり方を示す

「肥後烏犀圓」銘葉盒 熊本の名産品

既往出土数を越える

需要拡大に伴う短期間での雑化・量化

熊本鎮台の設置とそれに伴う城下経済の繁栄を示す

西洋陶器の出土

熊本城（鎮台本営）ならではの出土

嗜好品（エキゾティシズム反映）

必需品（執務形態の西洋化、国産で賄えないものは輸入品に頼る）

陶磁器類の組成からみた本丸御殿（鎮台本営）

日常生活の場ではなく・・・男社会、執務・軍事的空間、各所に物置

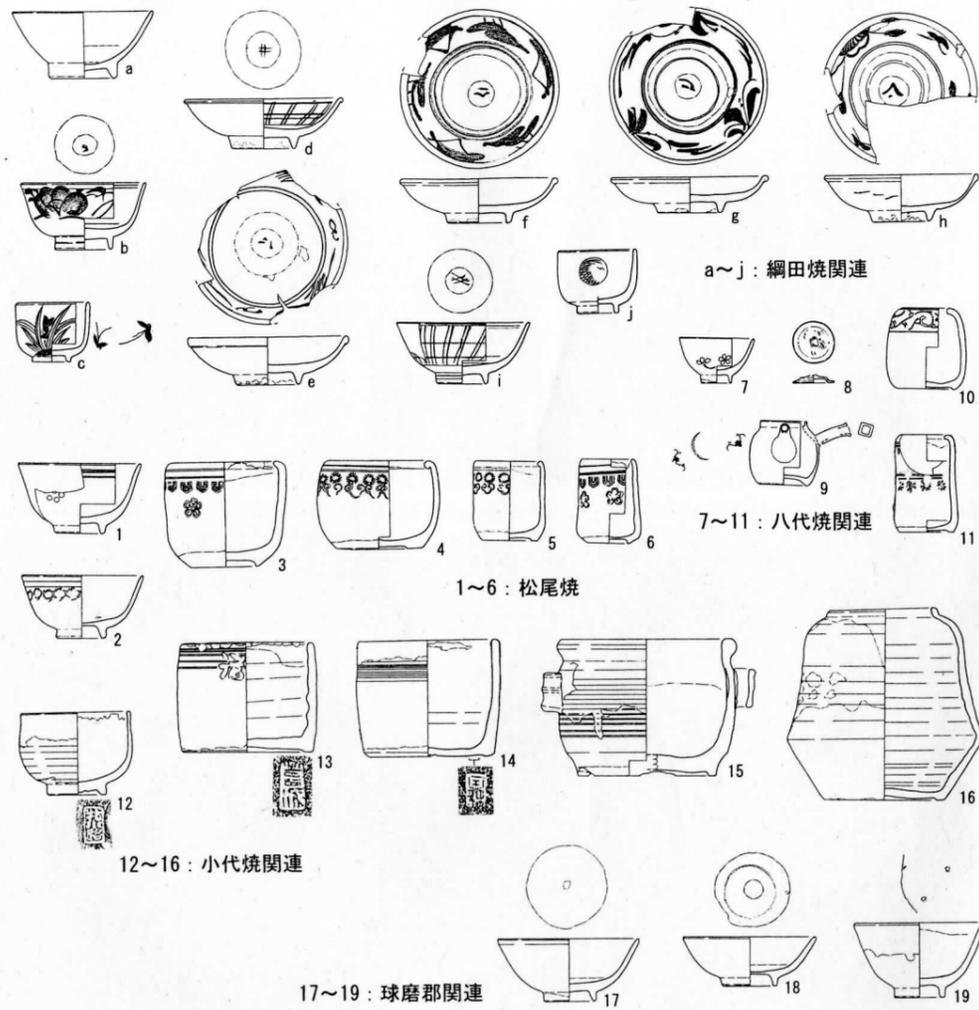
洋式施設への改変 近代軍隊に相応しい施設への必要性・志向

ガラス窓の取付け・通信機器の設置

通信開設は国家事業・中央政府との連携

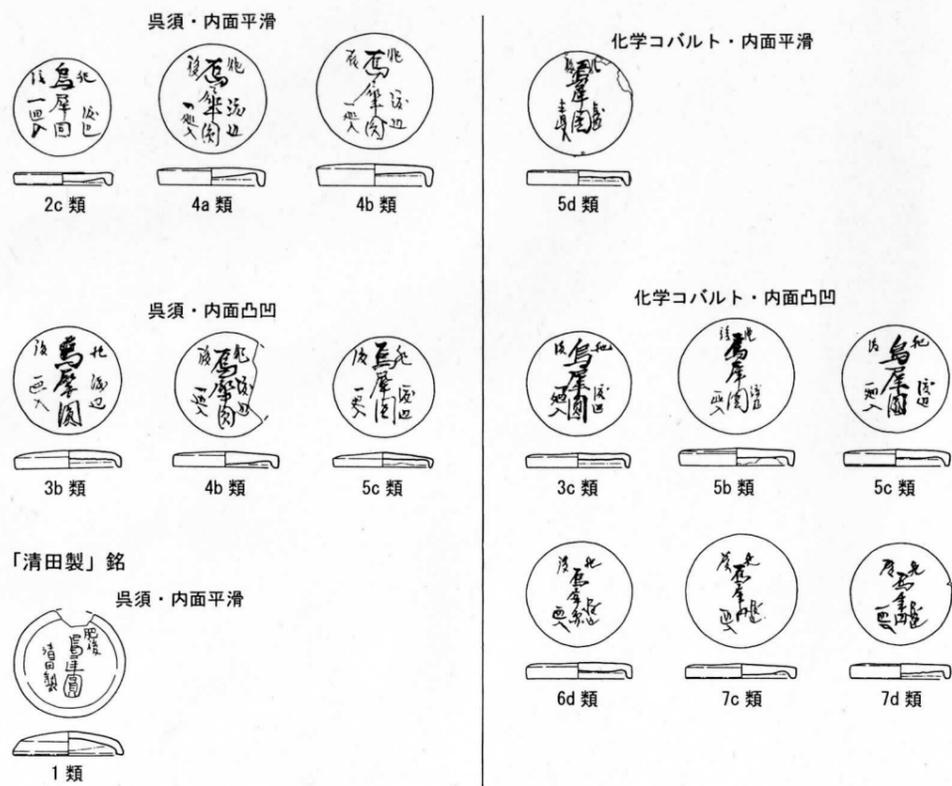
出土品の様相から熊本城炎上の謎に迫る

出土品の被熱状況から火元を小広間と推定（自焼説を補強する）

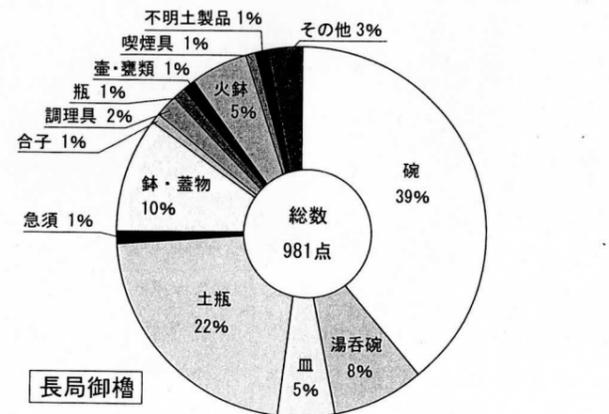
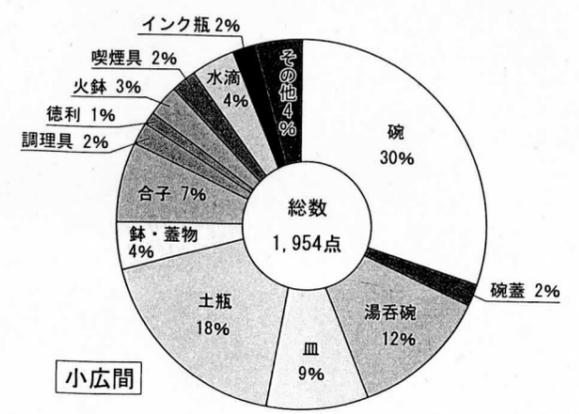
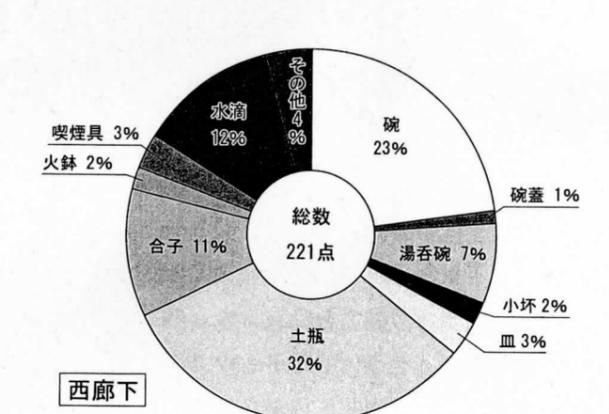
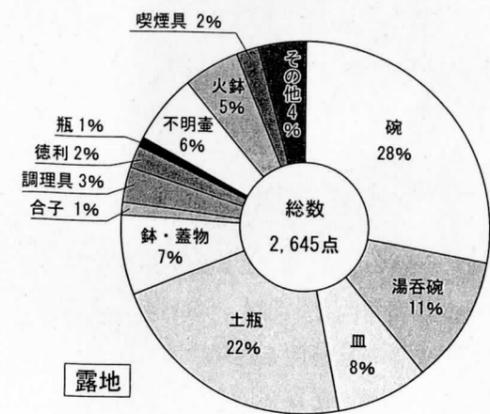
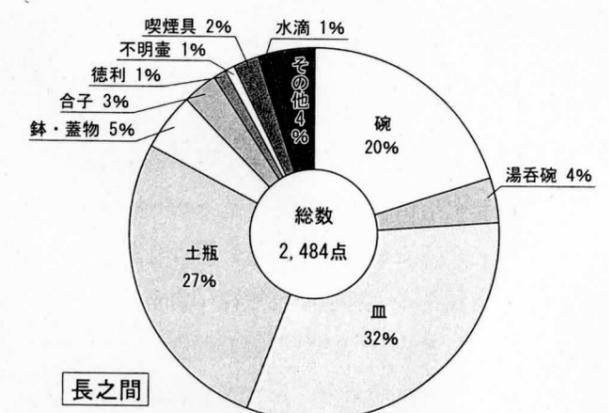
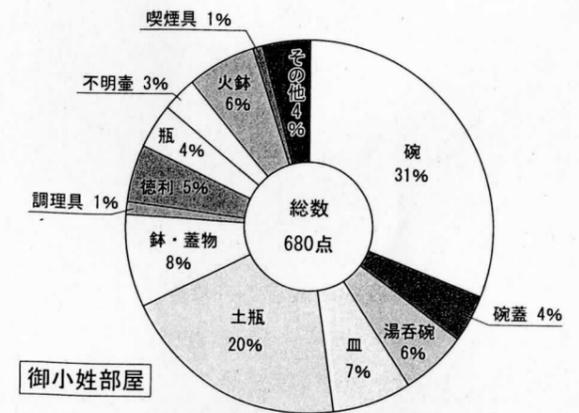
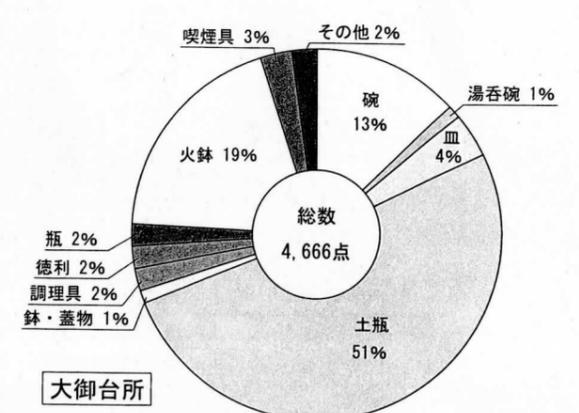
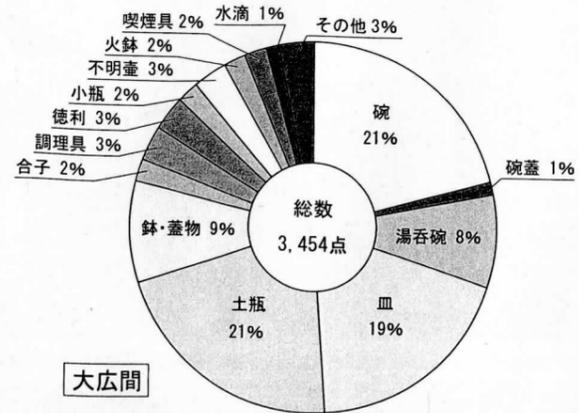


※網田焼関連 a~j は本文 (356 頁), 第33表に対応
 第420図 本調査区出土の熊本県内産陶磁器

「渡辺」銘



第421図 「烏犀圓」葉盒分類図



第426図 陶磁器類の大区別組成